

令和3年度 第4回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和4年3月17日（木曜日） 10時から12時まで

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、WEB上での意見交換による開催）

出席者 佐藤委員長、蛭川委員、堤委員、杉田委員、池田委員、中島委員、花形委員、藤田委員
吉澤委員、北川委員

欠席者 藤井委員

傍聴 3名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長森下 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none">資料確認 次第 資料1 令和3年度東京都相談支援従事者研修検討会活動報告（案） 資料2 令和3年度東京都相談支援従事者等研修演習指導者一覧（案） ※資料2は議事の中で公開しない取扱いとなった。 参考資料1 令和3年度相談支援従事者指導者養成研修プログラム（3月2日） 参考資料2 令和3年度相談支援従事者指導者養成研修会（フォローアップ） PG01 重要事項の説明 参考資料3 国立障害者リハビリテーションセンター 学院 令和4年度研修日程記録のための録音について、ご了解いただきたい。新型コロナウイルス感染症の感染防止のためWEB会議での実施となった。意見があるときは、挙手等で知らせていただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none">初任者研修、現任研修、主任研修、演習指導者養成研修、専門コース別研修のそれぞれのリーダーの方にこれまで議論したことの報告をお願いし、検討会の委員にも意見をいただきたい。資料1活動報告（案）に検討した結果をまとめる。来年度の引継ぎ事項にもかかってくる。特に、地域実習は改正後の研修の中核をなしている部分なので、地域実習の情報提供もお願いし、課題を共有したい。本日は、チームに分かれることなく最後まで全体で進行する。

2 検討事項

（1）各研修の実施結果について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none">初任者研修は杉田委員、演習指導者養成研修は花形委員、現任研修は中島委員、主任研修は吉澤委員、専門コース別研修は藤田委員の順番で報告をお願いしたい。主任研修は全体の振り返りができていない状況なので、実施してみても概要や課題などを中心に話してもらおう。まずは、初任者研修杉田委員からお願いする。
-------	---

杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は初めての完全オンラインであったが、グループファシリテーターの方がしっかりと活躍してくれたおかげで無事に終了した。ただ完全オンラインだとメインファシリテーターがいても各グループに分かれてしまった後の質の担保というところでは、フォローが難しかった。それでもやったということは良かったと思っている。 ・チームの動きとしては5月から進めた。今年度はやることがありすぎて、次年度に向けて整えるところまではいかなかった。プログラムとしては多少手直しがあるもののほぼ完成に近いと思っている。 ・今年度の大きな成果は、演習ノートのニーズ整理のところに「ことばの持つ力」のコラムを載せることで、より深く説明することができた。 ・次年度に向けて「地域実習の体制を整える」ということが一番の課題
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・完全オンラインの難しさとメリットがあったのではないかと。課題としてグループに分かれた後のフォローアップということを含めて、検討していかなければいけない。 ・続いて、演習指導者養成研修を花形委員にお願いする。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修は3名の協力者に協力してもらった。うち2名は新規で今後継続してやっていただける人につないでいくという意識で今年からお願いした。 ・オンライン研修で初めてファシリテーターをやった方の感想では、内容の難しさもさることながら、孤立感が強かったということだった。来年度以降も継続して残ってくれる人を増やしたいという事務局からの意見もあり、振り返りの際には「苦労をしながら継続することで少しずつ腕を磨いていく」という話をした。 ・課題としては初めてファシリテーターをやる方向けのファシリテーターの基礎を話す機会しか設けられなかったため、その部分はどうするか。また演習日程が長期間に及ぶので、演習の細かいことを伝える「まとめ役説明会」部分を事前に動画録画して、自分の日程の直前に確認できるような形にできたらという話が出た。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・人を確保するということが大きな課題になっている中で、心を砕いて演習してくれた。孤立感を感じるというのはオンライン上の課題なのか。支えがなく継続性が難しいという点を課題として、検討会の中で良い案を出していきたい。 ・演習は研修の中核なので、事前の不安を解消するためにも、動画を作成する方法は良い方法だと思う。 ・続いて、現任研修を中島委員にお願いする。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新しいカリキュラムでの初年度の実施であり、途中オンラインに切り替わるということもあり、それぞれの人達の負担が大きい研修であった。オンライン化に伴い、急遽1グループ1ファシリテーターという対応となったが、最終的には全て終了することができたということでは良かったと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・課題としては、地域実習についての課題が一つ大きくある。行政との連動性が自治体により差があり難しかった。今年度に関しては、東京都相談支援専門員ネットワークで、実習の受け手側のサポートを行った経緯もあり、行政との連動も実習受け手側の研修や周知というところが大きな課題である。 ・ファシリテーター養成の件も後から出てくるが、オンラインでの研修に数多くのファシリテーターが必要ということで、ファシリテーター経験が浅く、現任研修のカリキュラム自体がよく分かっていない方にも協力をお願いする中では、ファシリテーター自身が研修を熟知する、いわゆる回すという部分の難しさがある。演習指導者養成研修の絡みがない中での、現任研修のファシリテーターの課題だと思う。具体的には、ファシリテーターから地域作りの実践を報告する場面があるが、実際に現任者として地域作りを担っていない方も中にはいて、ファシリテーターによって地域作りの実践の差が出てしまった。 ・グループワークの中では、画面共有やチャットで素材を共有できなかったことで手元に課題を作っているかわからなかったり、聴覚だけでやり取りをしなくてはならなかったりした。全ての方に対して視覚的や聴覚的な共有できる環境整備の配慮が必要なのではないか。 ・オンライン化になることでファシリテーター、メインファシリテーター、事務局の負担が大きかった。環境整備については事務局も徐々にオンラインに慣れて複数の体制でスムーズになっていったが、オンライン以外でのやり取りや現場の調整的なところが来年度以降も同じか、もう少し人手が必要だと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修は地域実習や地域に入り込んでいく難しさ、連携、本質的な難しさがある。障害当事者の方にかえていくので力量アップ、質の担保等を積極的に検討会で考えていきたい。 ・オンライン併用の時代に入ってくるのは当然の流れ。いつか対面の研修に戻る希望を持ちながら、今後併用していくことを含めて色々なことを考えていく。大学でも素材の共有の悩みはある。 ・続いて主任研修を吉澤委員にお願いする。主任研修は終わったばかりで振り返りがこれからだと思うので全体像の中で話をできるところでお願いする。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3月4日に主任研修を終えたばかりで振り返りがまだなので、個人の意見が多いとは思いますが、課題としては、基幹相談支援センター等で役割を担う主任相談支援専門員よりも特定相談支援や障害児相談支援の立ち位置の主任相談支援専門員が圧倒的に多い状況の中で、第一層の主任相談支援専門員の役割を、東京都なりに考えていくべきではないか。今年度の研修では、第一層で主体的に主任相談支援専門員としての役割を考えて行動しているような方にシンポジストとして参加してもらい行政担当者、第三層の主任相談支援専門員も含めたシンポジウムを設けたということが大きなポイントだった。 ・主任相談支援専門員にとっての成果でもある地域共生社会に関して研修初日と最終日で確認する。軸のぶれない、主任相談支援専門員のあり方を目指すとい

	<p>うことはポイントとして実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者研修と現任研修で実習が始まったということで、地域のスーパーバイザーとして主任相談支援専門員が力を発揮できると良い。「連携」については、初任者研修でも現任研修でも個の支援における「連携」として取り扱い、主任研修では地域づくりにおける「連携」として取り扱った。なお実習との連動というところでは、区市町村の単位で人材育成の枠組みを組み始めることも進められているようだ。 ・ 研修の企画・運営を検討会以外の方にも担ってもらった。主任研修は5日間あり、受講者も地域のリーダー格の方が多く、緊張感も高く、テキスト作り等の負担感も大きかったのではと感じている。 ・ 東京都という地域を耕す人材をどう育成するか、講師やファシリテーターの担い手として主任相談支援専門員がどう活躍していくかを、今後考えていかななくてはならない。主任相談支援専門員同士で横のつながりを作って、お互いを支え合う、高め合う必要がある。東京都の民間の相談支援のネットワークなどを活用をしていけると良い。 ・ 受講者の定員が100名のところ90数名の申込みがあり、最終的に受講決定に至ったのが60数名という状況で、受講要件、主任研修を受講したらファシリテーターを担うという枠組みが作れるか等が、今後の人材確保における検討課題ではないか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主任研修の受講者の特徴として基幹相談支援センターではないところでの第一層の方が中心になるが、第三層までを含めた研修を見ていかなければいけないという難しさがある。初任者研修→現任研修→主任研修の3つの研修の連動性というところも意識して展開していかなければならない。主任研修でも実習の連動性が大きな課題になる。 ・ 東京都に主任相談支援専門員が大きく貢献していくことの役割の一つとして、研修を担ってもらう部分もあればという提案もある。主任相談支援専門員のフォローアップをどうするかという課題については、良い意味で相談支援のネットワークがあるのは大きいと思う。一緒に歩んでいける部分を検討できたら良い。 ・ 最後に専門コース別研修を藤田委員にお願いする。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の専門コース別研修は5日間の動画配信で行った。テーマは「意思決定支援」ということで、これまで東京都の研修で作ってきた本人主体、本人の意思を尊重するという相談支援専門員が意識して行うべきところを改めて確認する研修となっている。 ・ 意思決定支援の概要として、意思決定支援ネットワークの水島さんに担当してもらい、当事者の視点ということから東京都自閉協会の片岡さん、現場、利用者の視点から風雷社中の中村さん、私が研修のねらいとまとめを担当した。 ・ 250名の方が受講したが、受講者のアンケートから気付きの中で本人主体、

	<p>本人の意思を尊重するということが自身を生かしてくれるのではないかと読み取った。初めて担当したのでやり方が良かったのかどうかわからないが色々な意見をもらったことは確かなので、またこのような研修を続けていくことができればと思っている。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信で全てを行ったということで生の声を聞くということは難しい。しかし、アンケートで気づきという面を受講者が強調している結果が返ってきた。意思決定支援は最も難しい支援のスキルではないか。そこを取り上げたことの意味は非常に大きい。日本の意思決定支援は決定支援だけしてその後の検証が非常に弱いと言われている。意思決定支援の中に検証が含まれていることが諸外国の論文の中で言われ始めている。意思決定支援に何が要素として含まれているのかを学べる、良いテーマだったのではないか。 ・各リーダーの方から各研修の報告をしてもらった。検討会委員の意見、補足などあったらお願いしたい。(挙手・意見なし) ・(1) 各研修の実施結果については以上としたい。活動成果1の内容をここまで取りまとめることでよろしいか。
各委員	(了承)

(2) 地域実習の実施状況について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域実習の実施状況について、報告をお願いしたい。新しい研修での体系では地域での実地教育を最重要視している。初任者研修及び現任研修に実習が加わったことの課題として連携の難しさがある。その点を踏まえて、成果と課題の報告をお願いしたい。 ・初任者研修チームの杉田委員から地域実習についての話をお願いしたい。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムになったのが昨年度からで実習についても2回目になる。いずれにしてもコロナ渦中での実習なので対面が難しいなどいろいろな問題があり、地域でアドバイスを受けることは難しい。 ・今年度は、まずは相談支援の担当の方が国の示している重層的な相談支援体制について理解してほしいという意味があり、受講者に対して行政の人たちが、国のものに照らし合わせて自分の自治体の体制はこうなっているなど説明してもらうことを入れた。そこが昨年度と大きく違う点である。 ・2回目の実習については変わらずインタビューのため、できるだけ直接の対面でない形を推奨してきた。課題としては主任相談支援専門員のような力量がある方たち、これから地域の中で相談していける人、つながってほしい人につながれるような仕組みにしないといけない。 ・区市町村によっては理解の仕方が違って、主任相談支援専門員につながらずに行政で対応する地域もある。学習効果を高め、担保していくためには、拠点機関にいる主任相談支援専門員につながるものが建前ではあるが、拠点機関に主任相談支援専門員がいないところもまだ沢山あるので、来年度に向けては

	<p>力量のある主任相談支援専門員につながるような仕組みにしないといけない。加えて、これまでつながるだけでアドバイスをもらえていないため、来年度以降はアドバイスとまではいなくても、見てもらえるように仕組みを作っていきたい。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 一つのテーマを決めたことで見えやすかったし、それに付随してブレないようにかなり注意した実習だったのではないかと。資料は領域を超えて検討していかなければならない。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> 現任研修は、活動成果2に書いてある実習の実施状況と課題のところでは大きくまとめたのでこのとおりである。現任研修に関しては実習が二つあり、一つは演習の中で行う実践の振り返り、個別支援の振り返りの素材を持って地域に帰ってまた、助言を受けて帰って来るということ、もう一つは区市町村の自立支援協議会への参加の報告書を記入すること。 実際には地域に帰って拠点機関とつながっていて気づきを得るということで、相談支援専門員自体が振り返りが必要でも現場では日常に追われている。また複数の相談支援専門員がいない事業所は、日常業務の中で自分の実践を振り返る、他者から意見を貰う機会がない方が多い。 演習ではグループの中でも助言をもらう、ふりかえる、気づきを得る。実習は地域の主任相談支援専門員やベテランの相談支援専門員の方に対応してもらうつもりで、主任がいないところは現任の相談支援専門員の方も対応してくれる自治体もあった。実際は、主任相談支援専門員につながらない人もいたと思う。 現任研修の振り返りの中でも、研修自体を熟知している協力者のところに、その自治体の担当者から連絡が全くなかったとの話があった。研修作りをあまりしていない人につながると、こちらの意図とはズレて実習から帰ってくる人もいた。今後は相談支援研修を熟知している方に、地域ごとにつながるかということが課題ではないか。 協議会参加の課題では、自立支援協議会自体が今年度、コロナがあって開催していない。オープンにしていない会議であったり、回数が少なかったりという課題も浮き彫りになった。 現任研修の修了者は、地域に帰った時に地域作りのアクションを行う。実践の場は協議会だけではないので、チームの方でも「等」を入れるか否かについて進めたかったが、今年度は自立支援協議会だけに絞った。 来年に関しては、地域で現任の人たちが地域作りのアクションを起こせる場としてつながるのであれば、実践の場として実践を積み重ねられるようなところでつながり、展開できる仕組みを考えることが必要ではないか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 現任になるほど地域に入りこんで役割が大きくなっていく。課題の部分がよりはっきりと見えたような気がする。 確かに「等」を入れられると地域のオリジナルな活動とのつながりが、含まれていくかと思う。様々な意味での協議会等への参加ができると力量がアップして、いろいろな領域の人たちとつながることが強みになる。 初任者研修も現任研修も地域実習というのは課題がまだまだあることがよく分かった。 活動成果2としてはこれでいいかと思うが、検討委員の方から加えた方が良いところがあれば意見をいただきたい。

堤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町田は初任者研修も現任研修も、実習の対応をほとんど支援センターに任せている。支援センターに負担がかかっている一方で、地域とつながるという意味では、支援センターと初任者研修を受けている段階からつながれるのは良かったのではないかと。また障がい福祉課の人たちが、相談支援の三層構造や受講生とのつながりを考えるきっかけになったのが良かったと思う。 ・協議会参加の実習については、町田市は施策推進協議会がその機能を担っており、自立支援協議会という名前ではないので、あまり知られていない。今回この企画が入ったので、現任研修の受講者が10数名オンラインで見学に来てくれたのは良かった。自立支援協議会というものの、施策推進協議会がそういった形で見えてくる気がした。 ・町田は相談支援部会が各協議体との連携を作ろうとしている段階なので、相談支援の研修で実習があるのはタイムリーだった。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間を通してファシリテーターとメインファシリテーターをやって、その中で一番感じたことについて伝えたい。 ・初任者研修で今年度変えたことは、区市町村の窓口による相談支援体制の枠組についての説明を入れ込むことだった。 ・聞き取った内容をまとめる力も必要、という見方もあるだろうが、課題を発表する時間が短く、各区市町村が、どんな支援体制の説明をしたのか、見えづらかった。各自治体の様子を知りたいけれど、聞き出したら時間がかかるため、もったいないという気がした。 ・現任研修は、実習の中で自立支援協議会の見学があったが、そういうことがあったのかというくらい自立支援協議会の報告の印象が薄かった。 ・何のために自立支援協議会が存在するのか。行政の理解をそこまで重視しないのであれば、自立支援協議会に固執しないで、実質的に機能しているところに話を聞きに行き、実習先にする方が確かに良い。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形で自立支援協議会の場があることが分かった。 ・発展的にやっている自立支援協議会以外の協議会もあると思う。一か所場で検討をするのでなくていいと思う。いろいろなところで課題があるということを知ってもらうことが大切。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の三層構造をなぜ語るのか。流してしまう人もいるが、きっかけ作りとしては意義のあるものである。 ・自立支援協議会を調べて、興味を持ってもらう。協議会が無いのは何故か、参加できないのは何故かと疑問を持ってもらうことによってスタートが踏める。 ・今までの説明を聞いていると、区市町村への説明が重要である。 ・説明会では、何故それをしてもらう必要があるのか、ただつながるだけでなく、地域力がアップしていく、地域に良い相談支援専門員が育てば、利用者にとって豊かな人生につながって、その先には地域の力となり、地域自体の力が上がっていくことをしっかり伝える。 ・東京都の現任研修や初任者研修、演習指導者養成研修の東京都の中身をしっかり伝えて、人材育成することが大事であり、地域もそれを担ってほしい。そうすると地域力がアップしていくことを区市町村への説明会でしっかり伝えていくことが、今年度やってみて重要であると感じた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・第一歩の説明がとても重要であることが分かった。 ・地域実習に関して現状や来年度に向けて何をしなければいけないということが

	良く分かった。この内容を活動成果2としてまとめることで良いか。
各委員	(了承)

(3) 研修講師の養成と確保について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長と副委員長を中心に研修を支える研修講師の養成と確保についての現状と課題の整理と今後の方策を検討してきた。 ・これまでの検討会では、研修の制度改正に対応するために研修毎にチームを分けて、プログラム及び教材を作成し、一定の成果を得てきた。研修の実施には、プログラムや教材作成を「つくる」要素、受講者が参加する当日を「まわす」要素、結果を振り返り次回に活かすための「見渡す」要素の3要素がワーキンググループの中でキーワードとしてできた。この役割をどのように検討会委員・協力者・研修講師が担っていくのか話し合いをしてきた。 ・東京都の相談支援専門員が活動を続けていくためには、これらの要素をバランスよく機能させ、運営をしていく実態がはっきり見えてきた。 ・今後の研修を5つの課題として整理した。 ・1つ目は、研修の種類と日数が増加したことで、「まわす」役割を担う演習指導者の不足が深刻化している。 ・2つ目は、研修の質を保つために演習指導者は、ファシリテーション技術を学ぶということと研修内容を理解する必要があるが、現行の演習指導者養成研修が初任研修に紐づいており、現任研修のファシリテーターは対象となっていない。 ・3つ目は、プログラムや教材の作成に携わる検討会委員以外の協力者は、任意参加の扱いになっているが負担が大きい。 ・4つ目は、新たに導入された地域実習では、区市町村によって拠点機関の選定や実施内容に差があった。 ・5つ目は、研修毎に分かれての検討が中心となり、全体の課題が見渡しづらい状況になっている。 ・今後の方策として、5つあげる。 ・1つ目は、東京都相談支援従事者主任研修修了者からの協力を得られるよう工夫することとした。来年度も引き続き、検討していきたい。 ・2つ目は、初任者研修と現任研修、それぞれのメインファシリテーターに学ぶ機会を提供、できる手段を検討すること。ファシリテーターの技術獲得は、外部の民間団体の協力を得るということも1つの資源として考えられる。 ・3つ目は、メインファシリテーターを協力者として明確に位置づけをしていく。また、事前準備としてファシリテーターの役割だけではなく、プログラムや教材作成への協力依頼をしていくことを明確にしていく。検討会委員だけでは回す部分、作る部分でも難しい。協力していただく部分を明確にしていく。 ・4つ目は、区市町村の実習担当者を対象とした説明会を実施し、地域を意識し
-------	--

	<p>たファシリテーターを育成していく。また、検討会委員の選出については、区市町村のバランスを考慮した構成を考える。検討材料として資料2がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、資料2の名簿については委員会上の取り扱いとし、ホームページ上で公開しない資料でお願いしたい。 ・5つ目は、検討会は、全ての研修を俯瞰した課題を検討していく役割とする。合理的配慮を研修に取り入れる方策や共通で使用するツールの検討等、研修毎の課題ではなく全体を見渡した課題についての検討を行う。 ・これらを来年度の相談支援従事者研修検討会の中で検討していきたい。 ・研修講師の養成と確保については、今後の方策に連動している。特に人材確保と地域実習について議論してきた。 ・人材育成の部分で課題に思っていること、地域性についてのご意見を池田委員からいただきたい。
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者が西多摩地域にはいないことを実感した。受講者の参加を見ても毎年2、3名いるかないかである。東京都全体を見て、西多摩地域は障害の方がいないのかと言うとそうではない。大きな施設は都内の西部地域に集まっている。知的障害がある方の施設が集中しているので、地域のバランスを配慮していただきたい。 ・主任研修を修了した方がメインファシリテーターとして積極的に参加できる仕組みが大事である。初任者研修、現任研修のメインファシリテーターを行ってきたが、演習指導者養成研修を受講した方は、長丁場で期間が空いてしまうがしっかりと準備している。また、オンラインによるグループ進行も丁寧でタイムスケジュールに沿って進行していた。初任者研修や現任研修のカリキュラムを確認できる指導者研修が必要である。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都西部地域の意見が重要である。障害のある方がいないわけではない。社会資源を含めて、専門的に実働している方が検討会等に関わることはとても難しい。また、演習指導者養成研修修了者と修了者でない方のグループ進行等の様子を理解することができた。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修のチーム制の経緯ははっきり思い出せないが、現任研修の新しいカリキュラムを盛り込もうとした時に全体の中だけでは具体的な企画を考えることに限界があった。 ・チーム制をはじめた当時は、全体会で初任者研修、現任研修の連動性を確認し、また、各チームに横ぐしを刺す相談支援専門員像を考えるチームもあり、全体像を検証する役割がそれぞれで果たせていた。 ・主任研修ができて演習指導者養成研修の在り方を見直す中で、全体の統一感や各研修の連続性を検証していく役割が、さらに必要となった。 ・初任者研修と現任研修が複雑化していることも全体を俯瞰する役割をチームでやっていく限界につながっている。検討会全体の在り方を見直すタイミングではないだろうか。

	<ul style="list-style-type: none"> 各研修の企画やテキスト作成は、相談支援従事者検討会委員以外の方にやっていただくのが良いのではないかと。検討会委員は、理念や柱をしっかりと伝達し、理念に基づく企画になっているかチェックし、しっかりと伝えられる講師の選定をする立ち位置を作っていけると良いのではないかと。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 検討会を含めて研修全体を作る、回す、見渡すということが上手く機能することができると良い。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> 昔よりも研修がシステマチックにできるようになり、外から見ると難しく見えるが、実際に演習を回してみると決められた方法を受講者に提供することができるので、非常に発展された研修になったのではないかと個人的に感じる。 昔はもっとざっくり各ファシリテーターにお任せとなっており、質が違うこともあった印象。研修の中身を作成してくださった方々のお陰で、演習を回す側にとって、やり易い研修になった。 今後、発展した演習にするためには、さらにスキルが必要になる。良い意味でシステム化した部分とハードルが上がった部分が混在している。 コロナ禍の中で始まったオンライン研修は、合理的配慮を考える上で上手く活用していくことができると良い。 東京都の広域の中で西多摩地区が少ないといった意見があるが、相談支援専門員ネットワークを使うことでフォローができるのではないかと。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域性は大事だということを強調したい。演習指導者養成研修を受講していた方も自分で予習し分からないところがあった場合、事業所でファシリテーターの経験があった人に聞いたことで安心感を得られたとの報告があった。 検討会委員の地域のバランスを考えることも必要だが、主任相談支援専門員のファシリテーター協力も含めて、地域にいるこの人に聞けば何とかなる、この人はきっと把握している、気軽に聞ける人が地域にいと、その地域も育っていく。ファシリテーターや協力者も継続しやすい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 研修講師の養成と確保について、貴重なご意見をいただいたが、活動報告3については、このような形でまとめるということによろしいか。
各委員	(了承)

(4) 来年度への引継ぎについて

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の活動成果を踏まえて、来年度の検討会への引継ぎ事項をまとめたい。 事務局から来年度の実施概要やその他のことも含めて報告をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、今の段階で来年度の大まかなスケジュールや実施方法について決まっているところを報告したい。 令和4年度の法定研修スケジュールは、令和3年度同様、前半に現任研修、後半に初任者研修、年を越して主任研修を実施予定。研修の定員も今年度同様である。現任研修は、令和2年度に中止したため、上乘せした900人が定員になるので非常に多くのファシリテーターにご協力をいただかないと実施できない

	<p>い。4月に入り次第、調整をしたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方法については、講義はオンデマンド配信、演習はオンライン形式で実施する。演習は、グループワークができるように Web 会議システムを使用。東京都は、Microsoft Teams を推奨しているので、今年度同様 Teams で実施する。 ・令和4年度の国研修は、6月29日（水曜日）から7月1日（金曜日）の3日間と3月3日（金曜日）のフォローアップ研修1日間の予定。参加者の調整については、早急に行いたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ事項として、1つ目は、全ての研修を俯瞰した各研修の連動性と内容の整理及び本日挙げられた意見を含めて行うこと。2つ目は、地域実習に向けての仕組みづくりを整えていくこと。3つ目は、研修に携わる人材育成と確保についてである。 ・この3点を引継ぎ事項としたいが、ご意見をいただきたい。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域実習を支える仕組みについて、自分の感覚としては重層的な相談支援を説明することは必須であるが、地域で人材を作るということは、地域で実習結果を活かす仕組み、地域での実習結果を自治体としっかり把握し、把握したことに対して検証することまで含まれるのではないか。 ・今年度の受講者はどんな人がいて、地域でどんな人材が相談支援専門員として活躍するか、現任研修でいえば、今の相談支援専門員の課題を自治体の担当者も把握する必要があるのではないか。地域実習の結果を把握し、検証する。次に活かせる仕組みについて、もう一つ踏み込んだ内容にしても良いのではないか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体へのフィードバックを仕組みの中に盛り込み、どういう人が地域で活躍するのかということを伝えていくことは、地域の社会資源を把握する上で、含めた方が良くと思うが、事務局はいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・区市町村への情報提供という意味では、初任者研修、現任研修、主任研修の受講決定者名簿、修了者名簿を返しており、各区市町村に伝わる仕組みになっている。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ヘルパーを利用したいという方がいたとして、事業所の名簿を渡したとしても事業所の場所はわかるが、その事業所は身体が強いのか、精神が強いのか、介護保険を担っているところなのかといった、質的な中身はわからない。 ・受講者名簿からは把握できないところを、実習の結果をフィードバックすることで、質的な情報も把握できるのではないかと思い、意見を述べた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に返していくのではなく、自治体がのっていけるような、次に活かしてもらえそうな仕組みづくりと解釈した。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小平市は、実習を受けた受講者にアンケート調査をした。現任研修を受けた人の中で主任研修に誘いたい人を探す目的もあった。 ・自治体でアンケートを取って、スーパービジョンの結果がどうであったか、どのような場を望んでいるのかを検証し、自治体の体制を整えられると吉澤委員

	<p>が説明した質的などところにつなげることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体の実習をどのようにやるか引継ぎ事項2のところでも検討していけると良い。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 具体的手段については、今後検討していけば良いと思う。 江戸川区は7人いる主任相談支援専門員を実習の担い手とした。しかし、研修を受けている人と向き合い、どんなやり取りをしたか、これから相談支援専門員になる人や現任研修を受講している相談支援専門員が、どんな葛藤を覚えているかなど、実習対応者として区に返す仕組みにはなっていない。 実習内容のフィードバックを研修の枠組みとして設定されていると、そうした動きはスムーズにできるのではないかと。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> 新しいカリキュラムになり、地域実習が研修全体の効果性にも関わってきた。地域実習をしっかりと体制に整えていただかなければいけない。受け手としては、それぞれの地域のファシリテーターが、主任相談支援専門員をどうやって育てていくのか、どのように輩出していくのか。実習の受け手の体制をどうしていくのかにつながる。 来年度は、区市町村に向けて説明会をしようという提案が現任チームから出ている。 実習の振り返りを設けていない自治体もあるので、しっかり振り返っていただき、来年度の地域実習体制をどうするのか、ファシリテーター、主任相談支援専門員をどう輩出するのかに、つないでいかなければならない。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> どのように振り返りをするか、どのように伝達していくのか、どのように受け止められてきたのかを含めて、研修の内容を検討会と各自治体が協働して実施し、検証していくところまでを明確にできればと思う。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> 第1層の主任相談支援専門員の活躍の場を検討会としても考えていかなければならない。主任相談支援専門員の活躍の場は、基幹相談支援センターだけではない意識が必要である。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 基幹相談支援センターにいる主任相談支援専門員が少ない中で、「そこだけではないですよ。」ということを含めていく。 来年度に向けての引継ぎ事項2の実習のところは大きな課題であると認識されたので、事務局には活動報告(案)への盛り込み方について検討をしていただきたい。 来年度に向けての引継ぎ事項は以上の3点としてまとめたい。
各委員	(了承)

6 閉会

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 以上をもって、本日の検討事項は全て終了した。 今年度最後の検討会となった。コロナ禍で、急遽変更していかなければならないことを求められたが、相談支援専門員がどうあるべきか、より良い形で仕組
-------	--

	<p>みが育ってほしいという思いで研修が作り上げられていることを感じさせていただいた。みなさんのお力添えがなければ、研修は進まない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度で堤委員、池田委員、藤井委員、吉澤委員が相談支援従事者研修検討会委員を退員すると意向を表明された。4名の委員の方は、本当に相談支援従事者研修検討会を支えてくださった非常に大切な人たちであった。藤井委員は本日欠席なので、堤委員、池田委員、吉澤委員の順に一言ずつお言葉を頂戴したい。
堤委員	<ul style="list-style-type: none"> 丸20年関わってきて、身体・知的と精神が別だったのが三障害一緒になるなど、色々な時代を経験してきた。 私が20年間頑張ってきたモチベーションは、障害当事者が関わっていくことの意義や重要性という東京都の特色をずっと継続していきたいとの思いだった。 東京都でピアサポーター研修の検討も始まり、相談支援専門員というかなり専門性が高くなってきた部分と当事者に寄り添うピアサポーターという仕組みの部分在今后どう連動していくか、その連動性の部分に関わっていきたい。 相談支援専門員のファシリテーターなど人材が足りないという話もあるので、できるところで協力していきたいと思っている。
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> 検討会で意見を述べてきたが、地域にはすごくこだわりがある。東京都は23区から出てくる方がとても多く、どんどん格差が開いていくのではないかと不安がある。研修検討会でも議論していただきたいが、東京都の自立支援協議会でも議論していただきたいところ。 主任相談支援専門員として地域の中でどのような場があるか数年間モヤモヤ過ごしてきたが、地域実習の話し合いに参加する機会を得られるのではないかと感じている。 その他にも主任相談支援専門員のネットワーク、相談支援専門員全体のネットワークの組織ができてきているので、そちらからも知識を得ながら、改めて自分の地域を考えていきたい。 こういった機会を次につなげることも大事だと考え、今後も色々な形で関わらせていただけたら幸せに思う。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> この検討会はすごく楽しかった。参加する方たちから東京都がどういうところなのかを学ばせてもらいながら、その東京都にどんな人材が必要なのか、その人材を確保するためにはどうすればいいのかという文脈で企画を考えさせていただき、本当にやりがいのある楽しさも感じられる仕事だった。 実は、江戸川区の相談支援をさらに発展できればと新しい事業所を立ち上げることとなり、長期にわたり務めた委員を辞退させていただくこととした経緯 主任研修チームとして「主任相談支援専門員は法定研修にも関与しましょう」と言ってきた立場なので、今後とも皆さんのお付き合いは続くと思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> これからも色々な形でかかわってくださるということを嬉しく思い、これまで

	<p>のご協力について検討会を代表してお礼を申し上げたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局に進行をお返ししたい。
森下地域支援課長（事務局）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症の急激な拡大の中、大変申し訳なかったが、研修の途中で実施方法を変更し、皆様には多大なるご負担をおかけした。多くの制約があった中、計画どおりの規模で研修の獲得目標をおさえた上で、研修を実施できたことに感謝申し上げる。 ・本日の議論の中でも、自立支援協議会について言及があった。私共は東京都自立支援協議会の事務局も担っており、地域自立支援協議会の活動を集めて発信していく立場でもある。地域自立支援協議会と相談支援体制の確保は不可分な関係性にあると思うので、本日のご意見を参考にさせていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録要旨と意見を反映させた活動報告案の確認をメールでお願いするのでご協力いただきたい。